



STEP 3 「音の壁」を確認 10分

- STEP 2 で書き取った英文を、下のスクリプトと照らし合わせて確認してください。間違えた箇所にはスクリプトに下線を引いておきましょう。
- スクリプトを見ながら音声を通して聞いて、1. で下線を引いた箇所を確認します。
- 右ページの「音の捉え方」を読んで、音声変化について理解を深めましょう。

STEP 4 「意味の壁」を確認 10分

- スクリプトと右ページの訳を見て、内容を把握します。意味が分からなかった箇所については、スクリプトと訳の両方を四角で囲みましょう。
- p. 028 の「語句解説」を読んで、語句について理解を深めましょう。



15

I can't imagine how many times I checked the word [01]
 “zen-sho-suru” in my dictionary. I also asked my friends, my
 brothers and my mother for its exact meaning. This took place
 more than 20 years ago. In a dictionary, you'll see “Do what is
 best” or “See what you can do.” Now I think I understand its real [05]
 meaning: It's “no.” The word is used as a polite way of saying “no” in
 business situations.

Even people who are familiar with Japanese culture and speak [10]
 perfect Japanese sometimes complain that there are times when
 Japanese people do not keep their promises. I, too, get confused.
 Once, I went to see some clients, and in pure Japanese fashion,
 while we were discussing my offer, they kept nodding their heads
 and saying, “Yes, indeed,” and, “That's right.” They seemed happy
 and in agreement with me, and I left feeling very pleased.



16

The next week, though, it turned out that I had got it all wrong. [15]
 They had actually been rejecting me very politely, trying not to hurt
 my feelings with a clear “No, thank you. We're not interested.” They
 hadn't wanted me to lose face.

Some say it's their tender solicitude that makes it so difficult for [20]
 them to say no. They point out that there are many nonverbal ways
 to get the message across. I've learned that in Japan if someone
 cocks their head to one side or looks a bit absorbed in thought
 before saying “yes,” that's a sign of “no.” I've been trying to
 understand, but it's still hard for me to know the difference between
 a “yes” and a “no” when presenting a business idea. What I should [25]
 do is simple: Assume it's a “no” and keep trying!

音の捉え方

音声変化を「チェック」→「分析」→「再現」しよう



アメリカ英語ですが、細かい特徴が幾つかありますので、そのあたりも意識しながら、シャドーイングなどの音声トレーニングにつなげていきましょう。

まず、強弱の差がはっきりしていますね。例えば2～3行目の my friends, my brothers and my mother などです。これは逆に、重要な部分が分かりやすいということでもあります。慌てずに、強調されている言葉に耳を傾けましょう。

特徴的な母音の響き

次に、ところどころ、母音の発音に特徴があります。例えば8行目の familiar は、母音がはっきりと響き、聞き慣れた単語がいつもとは違って聞こえて一瞬戸惑いました。とはいえ、標準的な発音から大きく逸脱しているわけではまったくありません。この程度のバリ

エーションは、きちんと聞き取れるようになっておきたいものです。

また、音と音が非常に早くつながっている部分もあります。4～5行目の “Do what is best” or “See what you can do” あたりがよい例です。聞いていて「？」と思った部分は、やみくもに音声トレーニングを繰り返すのではなく、必ずスクリプトで確認して、音と音がどうつながり、どう変化しているのかを分析して、そういった変化をスクリプトに書き込んでみてください。

どのように変化しているかを納得した上で音声トレーニングに取り組み、自分でも再現してみることで、定着の度合いもまったく違ってきますよ。

訳 私はこれまで、何度「善処する」という言葉の意味を辞書で調べたか分かりません。友達や兄弟や母にもその正確な意味を尋ねました。これは20年以上も前の事です。辞書では、「ベストを尽くす」とか「できるだけのことをやってみる」とあるのを目にするでしょう。私は今ではその本当の意味を理解しているつもりです。それは「ノー」です。この言葉は、ビジネスの場で「ノー」を丁寧に伝える方法として使われています。

日本の文化に慣れ親しみ、完璧な日本語を話す人たちでさえ、日本人は約束を守らないことがあるという不満を時々、口にします。私も混乱することがあります。ある時、私はお客さんを訪問しました。そして典型的な日本のやり方で、私の提案について話し合っている間、彼らはうなずきながら、「本当にそうですね」とか「その通りですね」と言い続けていました。彼らは満足して、私に同意してくれているように見えたので、私はとてもうれしい気持ちで帰りました。

しかし翌週、私は完全に誤解していたことが分かったのです。実は彼らは、「いいえ、結構です。興味がありません」というはっきりした言い方で、私の気持ちを傷つけないようにしながら、私の提案を丁寧に拒否していたのです。彼らは私の顔をつぶしたくなかったのです。

日本人が「ノー」と言うのが苦手なのは、彼らの優しい心遣いのせいなのだと言う人もいます。(日本には)言葉を使わずにメッセージを伝える方法がたくさんあるのだ、と指摘するのです。私は日本では、もし誰かが首を片側に傾けたり、ちょっと考え込んだりしてから「イエス」と言ったら、それは「ノー」の印なのだ、ということを学びました。私は理解しようと心掛けてはいますが、それでもまだ、仕事のアイデアを提案した時の「イエス」と「ノー」の違いを見極めることは難しいです。私の対処方法は単純です。「ノー」だと仮定して、挑戦し続けてみるのです！